筆者にとってタテハモドキは南国のクジャクチョウ。1993 年 9 月に初めて沖縄を訪れた際、名護市伊豆味でオレンジ色が薄い夏型を目にしたのが初の出会いだが、以下に紀行文から印象に残る出会いを抜粋する。

Nov. 3, 1995：ニ度目の西表島は大原港から入って仲間川林道を探索する。港から 5 分ほど歩いた道路沿いに自転車レンタルが可能な土産物店があり余計な荷物を預けて仲間川林道への分岐点大原に向かう。ますます林道らしくなってきた下り坂の両サイドで叢の間を縫うようにヒョイヒョイと飛び交うのは羽裏の白い縞模様がきれいなマサキウラナミジャノメ。自転車をとめて容易にネットイン。濃いオレンジの鱗粉が新鮮でとてもきれいな秋型のタテハモドキも採れる。この時期、秋型に混じってまだ夏型もいるのがいかにも南の島らしい。

Sep. 17, 2004：与那国島祖納。朝一番にアオタテハモドキが出迎えてくれた路面近くでスジグロカバマダラとは異なるオレンジが舞う。新鮮なタテハモドキがサトウキビ畑と農道との境目で日向ぼっこを始めたらしい。ビデオ記録の大家である金子先生が「チョウと友達になる気持ちで接すればチョウは必ずいいチャンスをくれる」と教えてくれた極意を胸に、ゆっくりと一眼レフカメラで近づく。幸いアオタテハモドキのように驚いて飛び去ることはなく、サトウキビの葉っぱ上でみごとな開翅動作を見せてくれる。アオタテハモドキとも友達になりたいのに、残念ながらその後もこのようなシャッターチャンスを与えてくれず。

Dec. 2, 2012：与那国島アギンダ；気温があがるとツマベニチョウも飛び始め、やがて目の前のハイビスカスにきた個体をビデオ撮影してからネットイン。シロノセンダングサに蜜を求めて飛来したタテハモドキはオレンジが濃い美麗秋型で、じっくりとビデオで撮影記録をとり、さてネットインもと網を構えると素早く飛び去ってしまう。しばらくして、妻が「このあたりにもクジャクチョウがいるの？」と聞いてくる。おそらく先ほどのきれいなタテハモドキが目の前に来たのだろう。

Copyright© 2009- Soft House JUMP. All rights reserved.